

ほけんだより

教師用
武庫中学校保健室
H.27.12.2



～さまざまな性について～



ここ数年、メディア等で同性愛や性同一障害・・・等の言葉を耳にする事が多くなりました。今年になって、東京の渋谷区・世田谷区では、同性のカップルを公認する条例も制定され、宝塚でも来年から施行予定だとか・・・行政の動きに対して、学校現場はどうでしょうか？私も最近、研修会で学ぶ機会も多く、配慮できているかな？傷つけている子どもはいないかな？と考える機会をいただき、先生方にも知っておいていただきたいと思い・・・（もう知ってるよと言う先生方は、すみません(^;)）簡単ですがまとめてみました。読んでもらえたらうれしいです(^)

性別の申身は4つ

～外見やふるまい・体・心・好きな人の性別～

生まれた時の性別である「体の性」と、自分が自覚している「心の性」は必ずしも一致するものではなく・・・「男だから女が好き」とは限らず「女だから女が好き」とは限らないのです。

- L (レスビアン)** → 女性の同性愛者
- G (ゲイ)** → 男性の同性愛者
- B (バイセクシュアル)** → 両性愛者
- T (トランスジェンダー)** → 生まれた時の法的・社会的性別とは違う性別で生きる人
生きたいと望む人。



性のあり方は2通りじゃない。
ひとりひとり違うということ・・・

身近にいるんだという認識

人口の3～5%とも言われる性的マイノリティーを、教室の子ども達にあてはめた場合、クラスに1～2人は存在するかもしれないと言われています。カミングアウトする生徒は少なく、もしかしたら、現在、自分の性について悩んでいる生徒もいるかもしれません。これは大人も同じです。

何気ない言葉のやりとりの中にも、傷ついたり、悩んだり・・・無理をして笑顔を作っている人がいるかもしれないという認識を持つことが大切です。

■文科省通知 (H27. 4. 30)

「性同一障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応について」

性的少数者全般

- ・いじめや差別を許さない人権教育の推進
- ・子どもが相談しやすいよう、教員が心ない言動を慎む
- ・教員が服装や髪型を否定したりからかったりしない

うち性同一性障害

- ・専門家も含めた「サポートチーム」の立ち上げ
- ・服装や更衣室、トイレ、呼称などの配慮
- ・本人や保護者の意向を踏まえる
- ・診断がなくても性別への違和感に応じ柔軟に支援
- ・卒業証明書に変更後の性別を記入



人と違っていてもどんな子どもでも、同じように尊重される、学校は安心な場所だよ・・・というメッセージを発信することが大切なんです。

LGBTの子どもたちの実態

自殺を考える — 64%が自殺を考え、14%が未遂という現実 —

自殺を考えたことがある



自殺未遂をしたことがある



日本のゲイ・バイセクシュアル男性対象の調査(2005年有効回答数 5,731人)

2,095人の若者男女を対象に大阪で実施された街頭調査によれば、異性愛男性と比較してゲイ・バイセクシュアル男性の自殺未遂リスクは**5.98倍高い**、ということもわかっています。

「いじめ」と「不登校」

LGBTの子どもは、差別やいじめ被害の経験割合がとても高いことが、国内外の調査結果で明らかになっています。彼らにとって、学校が安全な場所ではなく、「ここでどうやったら生き延びていくことができるか」と、常に恐怖を感じる場所になってしまっている場合も少なくありません。

自傷行為の危険性が高い

10代のゲイ・バイセクシュアル男性の自傷行為の生涯経験割合は17%であり、首都圏男子中高生の自傷行為7.5%と比較しても2倍以上であることがわかっています。自傷行為は繰り返す傾向にあり、自死といった最悪の結果にならないために、私達に何ができるのでしょうか。